

平成 25 年
第 2 回町議会定例会

行政報告

(平成25年 5 月31日)

幕別町長 岡田 和夫

平成 25 年第 2 回町議会定例会が開催されるにあたり、当面する町政の執行につきましてご報告をさせていただきます。

(町民栄誉賞の表彰について)

はじめに、町民栄誉賞の表彰について申し上げます。

町では、町民栄誉賞表彰条例に基づき、これまでオリンピックに出場された福島千里さん、山本幸平さん、高木美帆さんに対し、幕別町町民栄誉賞を贈呈し、その栄誉を讃えてまいりました。

今年は、運動公園に 7 ホールを手作りで造成し歩み始めたパークゴルフが、産声をあげてから満30年を迎えるという誠に意義深く喜ばしい年となりました。

これを機会に、パークゴルフの誕生に、そしてその後の普及・発展にご尽力いただいた前原懿(あつし)さんに町民栄誉賞を贈呈いたしたく、去る 5 月 15 日に開催いたしました幕別町町民栄誉賞選考委員会での審査を経て、決めさせていただきました。

昭和58年当時、教育委員会教育部長を務められていた前原さんの発案で生まれたパークゴルフは、「遊び」の要素も手伝って、世代を超えたコミュニティスポーツとして多くの方々に愛されてまいりました。

前原さんは、国際パークゴルフ協会の理事長や日本パークゴルフ協会の会長としてご活躍され、全国への普及発展に大きな役割を果たされ、パークゴルフを通じて幕別町の名を国内外に広く知らしめられましたことから、パークゴルフ発祥30周年を機にその功績を讃えようとするものであります。

(パークゴルフ発祥30周年記念事業について)

次にパークゴルフ発祥30周年記念事業について申し上げます。

30年という大きな節目を契機として、パークゴルフのさらなる発展につなげる記念事業を行うため、幕別町パークゴルフ協会、体育連盟、商工会、観光物産協会、日本パークゴルフ協会、株式会社ニッタクスと町による実行委員会が 5 月 14 日に発足いた

しました。

実行委員会では、誰もが気軽に楽しむことができるパークゴルフの原点に立ち返り、愛好者の裾野の拡大を目的とした家族大会の実施をはじめ、記念式典の開催、記念誌の発行、札内みずほ町にお住まいの九本栄一さんが創作されたパークゴルフ音頭のCD製作などの事業が計画されており、これらの記念事業を通じてパークゴルフの一層の振興・発展につながるものと期待いたしているところであります。

(神奈川県開成町との災害時相互応援に関する協定の締結について)

次に、神奈川県開成町との「災害時相互応援に関する協定」の締結について申し上げます。

平成8年から平成16年まで「パークゴルフネットワーク会議」を開催し交流のありました神奈川県開成町から、昨年5月に交流再開に向けた申し出があり、協議を進めてまいりましたが、最初の取組として、去る5月10日に開成町から府川町長が来町され、「災害時相互応援に関する協定」の締結を行ったところであります。

東日本大震災を教訓に、遠隔自治体との相互応援が必要であるとの認識のもと、災害時における食料、飲料水や生活必需品の提供、救援・救助活動に必要な車両等の提供、加えて救助・災害復旧に必要な職員の派遣などを行うことにより、両町の災害対策の強化を図ろうとするものであります。

なお、6月8日から開成町で開催される「あじさい祭り」に幕別町の特産品である長いも、ゆり根やパークゴルフ用品などの販売を通じて、町民との交流を深めるため、観光物産協会と役場職員など10名が開成町を訪問するほか、今後におきましては、児童・生徒の交流事業や職員の交流などの実施に向けて協議をしていくことといたしております。

(北海道工業大学との連携について)

次に、北海道工業大学との連携について申し上げます。

昨年来、協議を進めてまいりました学校法人北海道尚志学園北海道工業大学との間で、来る6月6日に連携に関する締結を行う運びとなりました。

この協定は、大学と町が持っている人的・物的両資源の活用を図り、相互に協力し、町と大学の活性化を図ろうとするものであります。

今年度につきましては、大学から講師をお招きし、「くらしの安全と安心」をメインテーマに住環境や医療の問題について、住民の皆さんとともに考えるコミュニティカレッジの開催をはじめ、夏休み中の小学生を対象に、手作りリモコンカーを組み立てる楽しさを体験する「小学生モノづくり教室」を計画しておりますが、この連携を通じて、人材育成や行政課題の解決などに役立ててまいりたいと考えております。

(コミュニティバス運行事業者の決定について)

次に、コミュニティバス運行事業者の決定について申し上げます。

国、道、町民の代表をはじめ、交通事業者などで組織する幕別町地域公共交通確保対策協議会におきましては、昨年コミュニティバスの試験運行を経て、本年10月からの本格運行に向けて、路線や停留所など運行形態や運行車両について検討を重ねられてまいりました。

コミュニティバスの運行にあたっては、運行の安定性と安全性の確保が何より重要でありますことから、協議会においては公募型プロポーザル方式による選定が行われ、去る5月13日に開催された第1回協議会におきまして、十勝バス株式会社を運行事業者に選定する旨の決定がなされたところであります。

今後、町といたしましては、協議会と手をたずさえて、コミュニティバスの愛称募集や車両デザインの決定をはじめ、事業者から提案のありました町内会単位での体験乗車会などの利用促進策の検討を行い、多くの方々に親しみを持っていただき、利用しやすいバスの運行に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

(土地改良事業)

次に、土地改良事業について申し上げます。

平成24年度から25年度に繰り越しいたしました農業体質強化基盤整備事業により、ます暗渠排水整備工事につきましては、既に、116ヘクタール分、約1億8,000万円の工事を4月に発注いたしました。今後、7月上旬には380ヘクタール分、約6億6,200万円の発注を予定しております。

例年になく大型事業の実施により、農地の基盤整備が大幅に進むとともに、地域経済の活性化に資するものと期待いたしているところであります。

(農作物の作況)

次に、農作物の作況について申し上げます。

今年は雪解けが順調に進み、馬鈴薯の植え付けや甜菜の移植作業は、平年よりやや早く始まりましたが、5月に入ってから、連休中に8年振りの雪が降るなど例年になく低温で日照不足の日が続きましたことから、農作業、生育状況ともに若干の遅れが生じている状況にあります。

5月15日現在の秋まき小麦、牧草の生育状況につきましては、低温により2日から4日の遅れが見られ、馬鈴薯の植え付けやサイレージ用とうもろこしのは種作業は1日から3日の遅れとなっております。

今月(5月)下旬に入りまして平年並みの気温に戻り、急ピッチで農作業が進められているところでありますが、農作業事故の無いよう万全の留意を願うとともに、この先、天候に恵まれ、農作物が順調に生育し、昨年を上回るような豊穰の秋となることを願っているところであります。

(町営牧場の入牧状況)

次に、町営牧場の入牧状況について申し上げます。

今年は、忠類地区の共栄・晩成牧場の雪解けが早かったことから、昨年に比べ2週間以上早い5月15日、16日の両日に入牧を行い、2か所合わせて乳牛315頭、肉用雌

牛38頭が、また、南勢牧場につきましては、5月21日に入牧を行い、乳牛251頭、肉用雌牛15頭が、町営牧場全体では619頭（前年同期950頭）が入牧を済ませたところがあります。

今後、さらに240頭の入牧が予定されており、飼育にあたりましては、事故などが起きないように、職員の安全管理に対する意識を徹底させ、入牧牛馬の管理に万全を期してまいりたいと考えております。

以上、当面する諸問題等につきまして、ご報告をさせていただきましたが、議員の皆様には、引き続き町政の執行に対しまして、一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。行政報告とさせていただきます。